

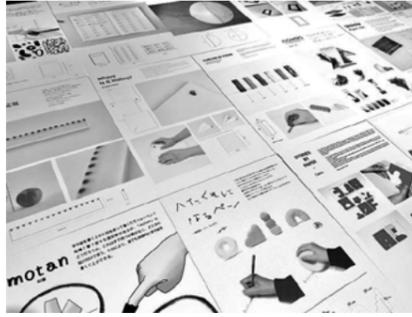
# 「ヨコク」賞18点決定

## ココロデザインアワード

ココロ株式会社(黒田英邦社長、大阪市)は、このほどプロダクトデザインの国際コンペティション「ココロデザインアワード」20回記念特別賞「ヨコク賞」18点を決定して発表した。

ココロデザインアワードは2002年の創設以来、受賞作品を商品化することに力を入れており、審査の過程ではアイデアの秀逸さに加えて、製造方法や使用時の快適性・安全性などへの考察も求められるため、アイデアの面白さや発想力が突出していても、表現性やバランスが考慮される。

20回目の開催を記念して表彰する特別賞「ヨコク賞」は、全応募作品の中から学生の応募作品を対象に、商品化を前提と



デザインアワードの「ヨコク」賞

「ヨコク賞」は同社のパーパス「ワークする未来のワークライフをヨコクする」に由来する。選定においては、ワークできる要素があること、未来を感じる提案であることを重視した。

「ヨコク賞」の表彰式は2月24日に非公開で開催、受賞者には表彰状と賞金3万円が贈呈された。

なお、グランプリ・優秀賞を決定する最終審査は3月18日に行い、同日に表彰式を開催する。最終審査と表彰式の模様はココロデザインアワードYouTubeチャンネルにてライブ配信し、その中で「ヨコク賞」表彰式の模様も紹介する予定。

「ヨコク賞」受賞作品(応募順)は次の通り。作者の敬称略。

「Stories by Paper」(Yashika Munja)、 「Uniclip」(Ma Kwan Lam)、 「FLOWERS」(安齋瑞穂)、「感覚マシヤ」(金井大心)、「Color of food」(Hui min Zhou)、「もようのぬいす」(木下快)、「mosatto」(Cパン) 山口颯太、竹重風美、立石和希、「motan」(Cパン) 山口颯太、竹重風美、立石和希、「Tactile brush」(Liu e-brush)

富士封筒  
フジックス株式会社  
http://www.fujix-ks.com

# 「書くって大切なこと」プロジェクト展開

## パイロットが筆記具提供

日本文化教育推進機構

一般社団法人日本文化教育推進機構(田代綾代表理事)は、株式会社パイロットコー

ポレーション(伊藤秀社長、東京都)の協力を得て、全国の小学校・児童フリースクールなどを対象に、2023年4月より「書くって大切なこと」プロジェクトを展開する。

同プロジェクトでは、教育ICT化が進み一人一台タブレット端末を活用するこの時代だからこそ伝えるたい「書く」ことの大切さを意識する児童に、1時間間のプログラムを無料で提供する。

到着したその日に使える指導用スライド・ワークシート・指導案を無料でお届けします!!

指導用スライド  
ワークシート  
指導案

実践用教材の配布  
実践用教材の配布

初年度である本年は、授業に参加した児童全員に同社の消せるボールペン「フリックシオンボールペン」を1本ずつ、授業をする教員には消せる蛍光ペン「フリックシオンライト6色セット」を、授業での実践用教材として、先着100クラスに送る。事前予約を受け付けている。

小学校では1年生より鉛筆でひらがなを練習するが、ここ数年はタブレットやパソコンが支障され、タイピングも同時に練習するようになった。子どもたちの「手書き」の時間が「タイピング」の時間に変わりつつあるなか、あえて手書きをする理由はどこにあるのか。同プログラムはそのような時代・教育的な背景から企画した。

内容は①「書く」ことは「タイピング」と比べて何に優れ

# 前年同月比157%成長

## 電子決済増加を示すデータ



シャチハタ株式会社(舟橋正剛社長、名古屋市中区)は、社内外の文書の回覧・承認、電子印鑑の捺印を行えるクラウドサービス「Shachihata Cloud」(シャチハタクラウド)における登録印鑑数が前年同月比157%に成長し、捺印回数が17.9万回を突破した。シャチハタクラウド

シャチハタクラウドは、クラウド上で電子印鑑の捺印を行えるクラウドサービス「Shachihata Cloud」(シャチハタクラウド)における登録印鑑数が前年同月比157%に成長し、捺印回数が17.9万回を突破した。シャチハタクラウド

シャチハタクラウドは、クラウド上で電子印鑑の捺印を行えるクラウドサービス「Shachihata Cloud」(シャチハタクラウド)における登録印鑑数が前年同月比157%に成長し、捺印回数が17.9万回を突破した。シャチハタクラウド

Hu, Miao Jingyi、 「i-roiroosuu」(道脇一真、鈴木颯太、塚本朱梨)、「見え方の色鉛筆」(大原衣吹)、「新しい芳名長」(キムミンジ)、「丸いノート」(北島智恵)、「mado」(星野秀斗)。

を受けて業務機能を含む2種の新機能の追加、「Shachihata Cloud」(シャチハタクラウド)を刷新した。

最新利用データは、登録印鑑数157%アップ(前年同月比)、捺印回数462%アップ(前年同月比)。月間439万4377回(2022年12月)。累計5291万7915回(2020年7月のサービス開始時より合計)。回覧回数は年間230%増(対前年比)。導入数はシリーズ累計95万件、継続利用率は97%。

「Shachihata Cloud」は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、社会全体に推進されたデジタル化の波を受け、ビジネスシーンにおいて普及するデジタル化の波を受け、ビジネスシーンでの決済業務をサポートするために、顧客ニーズの高まりを受け開発。それまでの電子決済サービス「パソナ決済Cloud」の機能を拡張し、2020年に発表した電子決済サービスです。長引くコロナ禍と働き方の多様化により、都内企業従業員30人以上のテレワーク実施率は1ヶ月(2021年8月)で65.0%にも上った。

# 住吉大社参拝とふぐ料理堪能

大阪紙製品工業会(黒田章裕会長)の第291回歩み会が、2月20日に会員をはじめ家族、特別会員など17人が参加して開催。住吉大社での新春の参拝と同会が12年振りの訪れとなるふぐの名店でのふぐ料理を堪能して楽しんだ。

当日は午後3時に阪堺線・東宝町駅集合。路面電車に乗りして車窓から大阪の町風景を楽しみながら、住吉大社に向かった。同大社を参拝後、境内や周辺を散策したの「ふぐ」を使った活きふぐを堪能した。

はじめに黒田会長は「コロナ禍で1月開催が月に延期されたが、年初にこのように皆様と一緒に会食できることを大変嬉しく思っている。懇親の会を上げた」と挨拶。続いて国際紙ハルフ商事・北岡賢一大阪支店長が「大阪に赴任して4年になるが、その間「コロナ禍で仕事の面では

ており、2022年12月の時点でも52.4%と未だ半数以上がテレワークを実施していることがわかる。

これらの要因から、Shachihata Cloudでは2022年末時点で、同サービス上の登録印鑑数は前年同月比の157%を達成。捺印回数は前年同月比109%。前年同月比462%と1年間で捺印回数は約4.5倍へと増加したことが分かった。

また、回覧回数は前年同月比15%を達成。特に、捺印回数は1ヶ月間で439万

# 新人会員入会や社長就任祝い

3年振りに末星会  
京阪神を中心にメーカ、卸、小売の垣根を越えて次世代を担う若手後継者が集う末星会の例会が3年振りに2月15日午後6時30分から、大阪・船場の「玄品本町」で、新会員も加わり16人が参加して開催した。

最初にあかし・水谷豊社長が「コロナ禍により例会を開催することが出来なかったが、その間、世の中も大きく変化し、各自積もる話も多い」と挨拶。

続いて、恒例の社長就任者へのお祝いとして、竹野英祥氏(不易糊工業)を紹介した。また、新会員として鈴木勝也氏(不易糊工業)を紹介した。この後、ミツヤ・塚田征司



3年振りに末星会

# ERG役員

ERG役員  
エコー流通グループ株式会社(一ノ瀬社長、東京都)は、1月27日開催の定時株主総会並びに取締役会、次のように役員を選任しそれぞれ就任した。

代表取締役会長 長谷川豊  
代表取締役社長 一ノ瀬誠  
代表取締役 政本藤二郎  
取締役 荻原甲一 西康宏  
長谷川孝典、杉山徳、岡本茂雄、古本幸広、渡部秀嘉  
監査役 石川真一、船越良人 浅沼雅人

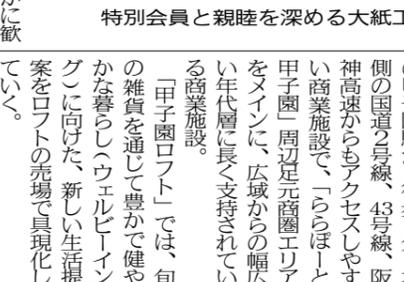
消化不良のこともあったが、大紙工の色々な行事に参加させてもらい大変有益であったと感じている。なお、私事であるが、この後、東京勤務となり、歩こう会参加も今回で最後になるが、大紙工及び特別会員各位の益々の健康を祈りたい」と乾杯の挨拶、親睦を深めた。

特別会員と親睦を深める大紙工

「甲子園ソフト」では、旬の雑貨を通じて豊かで健やかな暮らし(ウェルビーイング)に向けた、新しい生活提案をソフトの売場で具現化していく。

営業面積は約3765坪、ソフトでは最もスタンダードな店舗規模で、買い回し易いワンフロアタイプの店舗100種類を品揃え、文具雑貨(9000種類)、健康雑貨(7000種類)、バラエティ雑貨(4100種類)、生活雑貨(2500種類)の4領域で、巾(旬)と定番の商品を展開する。

甲子園ソフト  
4月7日開業  
株式会社ソフト(安藤公基社長、東京都)は、兵庫県内5店舗目、西宮市内には2店舗目となる「甲子園ソフト」を、4月7日に三井ショッピングパークららぽーと甲子園に開業した。「三井ショッピングパークららぽーと甲子園」は、阪神電車側の国道2号線、43号線、阪神高速からもアクセスしやすい商業施設で、「ららぽーと甲子園」周辺足元商圏エリアをメインに、広域からの幅広い年代層に長く支持されている商業施設。



特別会員と親睦を深める大紙工

4377回にもおよび、サービス開始の2020年7月から合計すると5391万7915回を記録している。導入数はシリーズ累計95万件、継続利用率も97%を誇る。これら多くの企業のデジタル化、業務効率に貢献している。

登録印鑑利用数が好調な背景について「新型コロナウイルス感染症の拡大による働き方の多様化で、テレワーク需要が高まったことから、在宅でありながらさまざまな書類の決済手続きが必要になったことにある。出社して物理的にハンコを捺印するという従

来の申請方法から、システム上で電子印鑑を押し申請することで、出社せずにデジタルでの手続きが可能となる。同社では「シャチハタは100年以上の歴史がある日本独自のハンコ文化を継承しながらも、アナログとデジタルの両面から企業の特長的成長を支援する「ハイブリッドDX」カンパニーとして新たな働き方のサポートとしてシャチハタクラウドを推進していく」としている。

担当者のデジタル認証事業部・石井慶氏は「1995年から約27年このように変遷を得て大変うれしく感じている。これからもシャチハタは、お客様の便利に役立つ商品・サービスをアナログとデジタル両面から提供し続けたいと考えている」とコメントした。

社長の乾杯の音頭で開宴し、情報交換を交えながら歓談、親睦を深め、最後に銀鳥産業・西村友秀社長の中締めで閉じた。

ららぽーとに  
甲子園ソフト